

花びらとブルドーザー

小笠原 徹

一枚の花びら あるいは道の上の一匹の虫の方が
図書室のすべての本よりも、はるかに多くのものを
含んでいる。
(ヘッセ)

決断と実行。百の議論よりひとつの実行

〇〇党

昨晚(十二月二十二日)「土浦の自然を守る会」の懇
談会で、土浦一高の栗原先生から、「数百羽のユジユリ
ン群棲地は世界で浮島が有名である」という話を初めて
聞いた。ところが一夜明けて、毎日新聞朝刊には、
「新しい道路は経済効果発揮のために、ユジユリン群棲
地を横断させることにした。」とある。

ながら、国道の騒音と排気ガス、寸秒の間断もない車の
激流などの殺人的凄さをタッブリ全身にしみこませた。
去る十二月十八日、会では「桜川の堤防の車輛交通止
め」を市長に申し入れた。私たち住民側が環境防衛とそ
の復元への努力を行政側に要求することは、生存及び居
住条件の守備意識という原点から発しているものである。
従って、その要求が行政の法規や現状を越える性質のも
のであればあるほど正しいということもあり得よう。し
ばしば住民の主張には地域エゴやセクトエゴ的なものを
併せてもっていることが少なくないが、それでもなお、国
や自治体の行政への不信感が増大している現状では、そ
のエゴすら非難するにはあたらない。

-42-

政府の国土改造計画で、将来、自動車倍増、G N P 倍
増、道路倍増ということになれば、狭い日本は、ドルと
産業廃棄物で首まで埋まってしまう、世界のエコノミッ
クアニマル イコール 怪象日本として地球の物質界に
君臨することになる。こうして、現在と将来の危機に
直面して、自らの生命と運命を守るために日本各地で自

人と三十分位の間、「土浦の自然」について話をし